日大斗争の発生

六八年・六九年とすでに三百日以上も断固として戦いつずけられている日大斗争は、ブル新や・中間的な学生等々から例の使途不明金のみがその原因であるように理解されているようであるが、これはまったく否である。

なぜなら、過去いくたびも戦われた日大生の血みどろの戦い、すなわち戦後においての軍国主義教授追放・学園民主化の戦い。一九四八年の三島反ファッショ闘争・イールズの学内受入・さらに一九五八年の日本大学合理化改善案とそれに反対する学生の戦いさらに日米同明（安保）や日韓闘争。また日大の体質をきさトしめすような、文理学部数学科のいわゆる日大数学科事件と作年四月の暴力事件等の数々の学生の敗北のうちに前記の日大合理化改善案をきじくに日本資本主義の要請に応え産学協同を確立し大学と学問を資本に隷属させもじどうり中級技術者・管理者の量産的育成と、思想的偏向の学生育成という支配者要請のモデル校として確立されていったのである。

しかし産業社会の要請は術産した学問のき問的分がつをまねき、結果としてマンモス化をまねきブルジョア的学問権威と、真理の追究・象牙の塔の破綻をまねき、技術的も思相的にも全く所の要い奴隷を大量生産するのである。その結果は現在日本大学が産業社会への順応しえず、中途半端なイデオロギーの創出場となり日本大学合理化改善案等との本質的矛盾の中で営利追求主義におちいりそれがゆえに・恐怖政治的学生支配の貫徹とアカデミズムの喪失もみちびき大学自体がその存在すらもうしなっていたのである。

このような日大の本質的矛盾こそが日大闘争の原因であることは、理解できるであろうし使途不明金は、これらの矛盾の露呈にすぎない。

日大闘争勝利

反動大学立法粉砕！

農斗委・食品工学科斗争委員会